



慶長3年8月18日(1598年9月18日)に亡くなった豊臣秀吉の遺体は火葬されることなく[1]伏見城内に安置されていたが、死去の翌年の慶長4年(1599年)4月13日、遺命により東山大仏(方広寺)の東方の阿弥陀ヶ峰山頂に埋葬され(『義演准后日記』・『戸田左門覚書』)[2]、その麓に高野山の木食応其によって廟所が建立されたのに始まる。廟所は秀吉の死後間もなく着工されたが、着工時はまだ秀吉の死は伏せられていたため「大仏の鎮守社」と称していた。この鎮守社は北野社に倣った八棟造りだったと『義演准后日記』慶長3年9月7日条に記す。秀吉は奈良東大寺大仏殿を鎮護する手向山八幡宮に倣い、自身を「新八幡」として祀るように遺言したといわれる[3]。「大仏の鎮守」として着工された社は、秀吉の死が明らかになるのに合わせるように「新八幡社」と呼ばれるようになる[4]。慶長4年(1599年)4月16日、朝廷から秀吉自身の望みとは相違して「豊国乃大明神(とよくにのだいみょうじん)」の神号が与えられた(『押小路文書』「宣命」)。『豊国大明神臨時祭礼御日記』によれば日本の古名である「豊葦原中津国」を由来とするが、豊臣の姓をも意識したものであった[5]。神号下賜宣命には豊国大明神は兵威を異域に振るう武の神と説明されている。4月18日に遷宮の儀が行われ、社は豊国神社と命名された。4月19日には正一位の神階が与えられた(『義演准后日記』[6]。なお、豊国神社は豊臣秀頼の希望により大坂城内にも分祀された。秀頼自身は本社創建の際には参列しておらず、慶長16年(1611年)の二条城訪問の折に初めて最後となる参拝を行っている。大明神号となったのは、八幡神は皇祖神であるから勅許が下りなかったとする説や、反本地垂迹説を掲げる吉田神道による運動の結果とする説がある[7]。豊国社の遷宮は吉田神道の吉田家によって主宰され、吉田家の当主吉田兼見が主に取り仕切った[8]。豊国社の社務職は兼見の孫で養子の萩原兼従が就任している[8]。また兼見の弟神龍院梵舜が、豊国社内の神宮寺の社僧になっている。慶長6年(1601年)には1万石が社領として寄進された。慶長9年(1604年)には徳川家康が、萩原兼従の社家としての地位を承認し、神龍院梵舜がこれを補佐するように命じている[8]。また毎年8月18日の秀吉の年忌には豊国祭と呼ばれる盛大な祭りが行われるようになった[9]。特に慶長9年度の豊国祭は「豊国祭図屏風」に描かれるなどして有名である。慶長20年(1615年)に豊臣宗家が滅亡すると、徳川家康の意向により方広寺の鎮守とすべく[10]、後水尾天皇の勅許を得て豊国大明神の神号は剥奪され、神社自体も廃絶された。もはや神ではなくなった秀吉には「国泰院俊山雲龍大居士」という仏教の戒名が贈られた。秀吉の霊は大仏殿裏手南東に建てられた五輪石塔(現:豊国神社宝物館後方[11])に遷された。当時の史料ではこの石塔を秀吉の「墳墓」と呼んでいる(『妙法院文書』・『雍州府志』など)。また秀吉の遺体そのものは霊屋とともに山頂に遺された(『雍州府志』)。秀吉の室北政所のたつての願いで社殿は残されたものの、以後一切修理をすることは禁止され、朽ち果てるままに放置されることとなった。

(略)



0001\_豊国神社



0002\_豊国神社



0003\_豊国神社



0004\_豊国神社



0005\_豊国神社



0006\_豊国神社



0007\_豊国神社



0008\_豊国神社



0009\_豊国神社



0010\_豊国神社



0011\_豊国神社



0012\_豊国神社



0013\_豊国神社



0014\_豊国神社



0015\_豊国神社



0016\_豊国神社



0017\_豊国神社



0018\_豊国神社



0019\_豊国神社



0020\_豊国神社



0021\_豊国神社



0022\_豊国神社



0023\_豊国神社



0024\_豊国神社



0025\_豊国神社



0026\_豊国神社



0027\_豊国神社



0028\_豊国神社



0029\_豊国神社



0030\_豊国神社



0031\_豊国神社



0032\_豊国神社



0033\_豊国神社



0034\_豊国神社



0035\_豊国神社



0036\_豊国神社



0037\_豊国神社



0038\_豊国神社



0039\_豊国神社



0040\_豊国神社



0041\_豊国神社



0042\_豊国神社



0043\_豊国神社



0044\_豊国神社



0045\_豊国神社



0046\_豊国神社



0047\_豊国神社



0048\_豊国神社



0049\_豊国神社



0050\_豊国神社



0051\_豊国神社



0052\_豊国神社



0053\_豊国神社



0054\_豊国神社



0055\_豊国神社



0056\_豊国神社



0057\_豊国神社



0058\_豊国神社



0059\_豊国神社



0060\_豊国神社



0061\_豊国神社



0062\_豊国神社



0063\_豊国神社



0064\_豊国神社



0065\_豊国神社



0066\_豊国神社



0067\_豊国神社



0068\_豊国神社



0069\_豊国神社



0070\_豊国神社



0071\_豊国神社



0072\_豊国神社



0073\_豊国神社



0074\_豊国神社



0075\_豊国神社



0076\_豊国神社



0077\_豊国神社



0078\_豊国神社



0079\_豊国神社



0080\_豊国神社



0081\_豊国神社



0082\_豊国神社



0083\_豊国神社



0084\_豊国神社



0085\_豊国神社



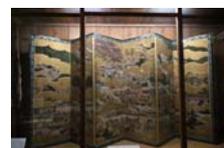
0086\_豊国神社



0087\_豊国神社



0088\_豊国神社



0089\_豊国神社



0090\_豊国神社



0091\_豊国神社



0092\_豊国神社



0093\_豊国神社



0094\_豊国神社



0095\_豊国神社



0096\_豊国神社



0097\_豊国神社



0098\_豊国神社



0099\_豊国神社



0100\_豊国神社



0101\_豊国神社



0102\_豊国神社



0103\_豊国神社



0104\_豊国神社



0105\_豊国神社



0106\_豊国神社



0107\_豊国神社



0108\_豊国神社



0109\_豊国神社



0110\_豊国神社



0111\_豊国神社



0112\_豊国神社



0113\_豊国神社



0114\_豊国神社



0115\_豊国神社



0116\_豊国神社



0117\_豊国神社



0118\_豊国神社



0119\_豊国神社



0120\_豊国神社



0121\_豊国神社



0122\_豊国神社



0123\_豊国神社



0124\_豊国神社



0125\_豊国神社



0126\_豊国神社



0127\_豊国神社



0128\_豊国神社



0129\_豊国神社



0130\_豊国神社



0131\_豊国神社



0132\_豊国神社



0133\_豊国神社



0134\_豊国神社



0135\_豊国神社



0136\_豊国神社



0137\_豊国神社



0138\_豊国神社



0139\_豊国神社



0140\_豊国神社



0141\_豊国神社